

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	住宅需給構造小委員会	主 査 名：伊藤史子 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築経済委員会	委員長名：古阪秀三
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>設置目的：1. 本小委員会は、建築経済分野からのアプローチとして、住宅の在り方について需給バランスを中心とした社会・経済的側面から追求し、住まい(需要)の変化に応じた住宅供給やその政策に関する研究を行う。</p> <p>2. 住宅需要として住まいへの要求(立地・住戸形態・広さ・設備など)の変化実態の解析、変化しつつある市場での住宅供給(ストックを含む)の実態把握と整理、住宅政策におけるこれらへの対応実態と今後の在り方を検討する。</p> <p>07 年度活動計画：1. 住宅需要に関しては住宅・居住地の選択と住まい方の変遷を 20 - 30 代女性を対象としたパネル調査データの分析から明らかにする。家族関係、就業状況、配偶関係、ライフスタイル、生活意識等の諸要因と居住、転居状況の関連性について関連性や通年変化の分析を行っていく。</p> <p>2. 住宅供給に関しては、特徴的な事例の調査と現地視察によりデータを蓄積するとともにこれらの供給事例及び関連する社会構造変化を近現代史として整理する。また他の住宅関連事項の時代変化との関連性を、近年の住宅設計論や政策論の変化の潮流を意識しつつ読み解くことを目指す。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有 伊藤 史子(首都大学東京) 藤岡 泰寛(横浜国立大学) 松本 真澄(首都大学東京) 加納 国雄(日本不動産研究所) 木内 望(国土交通省国土技術政策総合研究所) 橘田 洋子(Citrus) 志岐 祐一((株)日東設計事務所) 瀬川 祥子(UFJ総合研究所) 田中 勝(山梨大学) 生田目 裕(東京都宅地建物取引業協会) 米野 史健(国土交通省国土技術政策総合研究所) 吉川 徹(首都大学東京) 頼 あゆみ(国土交通省国土交通政策研究所)	
設置 WG (WG 名：目的)	無し	
2007 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会HPアドレス： : http://news-sv.aij.or.jp/keizai/jj/

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (5/8, 7/30, 11/23, 12/8, 3/18(予定))
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1.住宅需要に関しては、居住サービスに関する女性の消費動向パネルデータの分析を進めた。2カ年にわたり文科省科研費を受けて行ってきた分析をもとに、得られた成果等を公表しつつある。</p> <p>2.住宅供給に関しては、特徴的な事例の調査や近現代住宅供給史研究会等を通じて住宅供給史に関する情報を蓄積整理した。 (以上、末尾の研究成果参照。)</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1.旅費、時間的制約により遠方の委員の参加が難しい状況にある。建築会館と遠方委員の研究室を結んだTV会議システムの導入などを次年度に向けて検討したい。</p>
その他の活動状況・研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・杉谷・藤岡・伊藤(2007)「DEWKS女性の就業特性と居住特製の変容過程に関する研究」、『建築学会大会梗概集』F-1分冊、1457-1458。 ・伊藤(2007)「住生活基本法と不動産情報」、『季刊不動産研究』、vol49、13-18、(財)日本不動産研究所。 ・志岐(2007)「郊外住宅地『松濤』の成り立ちとくらし」特別展『住まいからみた近・現代の渋谷 - 郊外生活から都市生活へ - 』図録、41-46、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館。 ・藤岡・伊藤・杉谷(2008.6 掲載決定)「DEWKS女性の就業特性と居住特性の変容過程」、『日本建築学会技術報告集』 ・F.Ito <i>et al.</i> (2007) "The value of Niigata Machi-ya Activation ", "Proceedings of Building Stock Activation 2007." ・阿部・木内(2007)「住戸規模の地方差とその背景に関する研究：多雪地方と南海地方の比較を中心として」、『日本建築学会計画系論文集』、No.622、181-186。 ・伊藤・藤岡(2008.3 予定)『女性のライフスタイルと居住地選択や住まい方の関連性みる住宅需要の多様化の分析』文科省科研費(基盤C)報告書。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。